

令和5年度 平井保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 松山市も人口減少が著しく、平井保育園が位置づけされる東部地区は直近の5年間で0歳から2歳児の子どもの出生人数が94人減少しています。そのため0歳児クラスは可能な限り入園予約枠を広げ、安定した園運営を行いました。
- 労働環境については公休の増加、長時間労働の抑制、年次有給休暇の取得等、改善を行いました。しかし、改善の取り組みの中でも離職する保育士は3名いました。働く上で、仕事のスケジュール管理や仕事のペース配分が苦手な職員が増えているため、個人の課題に合わせたサポートが必要でした。
- 子育て支援センターの情報を広範囲でお知らせできるよう SNS 配信を行いました。登録者が300を超え多くの方に見て頂けており、近隣だけでなく、校区外の利用者也増加しました。乳幼児期の親子に対する活動を見直し、今年度利用者の中で入園につながったのは5家庭でした。
- 地域の行事については、園児や職員が多くの行事に参加することができました。また、地域の方に園行事にも参加してもらおうなど、コロナ禍以前のような関係を再構築することができました。

②定 員 120名 園児数141名

③事業日数 293日 (ほか休日保育51日)

④開園時間 平日 7:00～20:00 休日 8:00～18:00
 土曜日 7:00～20:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00～ 8:30
 通常保育 8:30～18:00【標準時間認定】
 8:30～16:30【短時間認定】
 延長保育 18:00～20:00

⑥職員数 園長 1名、主任保育士 1名、看護師パート 1名
 保育士 21名 (うちパート保育士7名)
 子育て支援センター担当職員 3名(うちパート保育士2名)
 延長休日保育担当保育士 3名(うちパート保育士3名)
 調理員8名(内パート職員5名) パート用務員 1名
 嘱託医(松山市の指定による) 小児科医 1名・歯科医 1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。

- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

0歳児	13名	保育士	4名	(うち保育士パート2名)
1歳児	22名	保育士	4名	(うち保育士パート2名)
2歳児	24名	保育士	4名	(うち保育士パート1名)
3歳児	28名	保育士	2名	
4歳児	28名	保育士	2名	(うち障がい児加配1名)
5歳児	26名	保育士	2名	(うち障がい児加配1名)
合計園児数	141名	保育士	18名	

主任保育士 1名

フリー保育士 3名 (うち保育士パート2名)

延長休日保育担当保育士 3名 (うちパート保育士3名)

⑤保育内容

- 乳児クラスは、担当制保育を行う中で、個々の発達の違いに応じた関わりを大切にしました。しかしその中で、保育士が子どもたちを急がせたり、言葉がけも必要以上に多くなる場面も見られたりしたため、「一日の保育の流れ」を基に、保育準備や保育環境が十分になされているかその都度見直しました。
- 幼児クラスはグループ保育を実施し、子どもが落ち着いて生活できるように取り組みました。生活の中で子どもへの言葉かけや子どもの主体性を育む働きかけをしました。
- 「朝の意味ある運動」で脳内ストレスを発散させる活動に取り組みました。その中で、年齢に即した共感あそびを取り入れ子ども同士認め合い、助け合い、学び合う力を育てました。
- リトミックでは即時反応や集中して取り組むことを大切にしました。また、各年齢に合った蹴る・跳ねる・伸ばすなどの基本的な動作について、目標に到達するよう取り組みました。
- 「石井式漢字教育」では、毎朝、絵本を読み、読解力を身につけ、話を聞く力を養うよう取り組みました。また、毎日の取り組みの中で、正しい姿勢を意識することが身につけてきました。

- 「音楽あそび」「体育あそび」は、専門の講師の指導計画の基に実践できました。現状の子どもの育ちに合ったものになっているかその都度確認しながら取り組みました。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」や人権に関する絵本を通して子ども達に分かりやすく伝えました。また、ソーシャルスキルカードを使い、友だちの気持ちに気づいて生活することの大切さを伝えました。
- 食育活動では、農家の方と田植えや稲刈り体験を通して地域の方との交流を図ると共に、食への関心を深めることができました。また、食育計画を基に食育指導を行い、食事のマナーを守って苦手なものでも食べることの大切さを伝えました。
- 保健指導計画に基づき早寝・早起き・朝ごはんをしっかりとることで、健康な体を作ることや、手洗い指導や熱中症への対応について伝えることで子どもたち自らも健康について意識していけるように指導しました。

⑥家庭との連携

- 家庭訪問（新入園児のみ）や個別懇談（年1回）、就学前個別懇談（年1回）、クラス懇談（年2回）、参観日や保育参加（年1回）を通して保育理念や方針、保育園で実践している保育やクラスの取り組みなどを伝えました。
- 保護者との連絡アプリ「CCWCoNNect」を活用し、様々な連絡（感染症について・災害時の事・行事について、出欠確認など）を行いました。また、登降園管理や電子連絡帳の機能を導入し、保護者との連携を迅速に行うことができました。
- 園だよりやクラスだよりをアプリで配信し、園の保育について保護者に理解してもらうことができました。
- 保護者に乳幼児期の規則正しい生活リズム「早寝・早起き・朝ごはん」は定着してきていますが、一部の家庭には個別に重要性を伝えました。
- 配慮を要する子どもは、早い段階でアプローチすることで保護者の理解を深め、保健所や発達支援事業所などの専門機関と連携するようになりました。保育園巡回などで、専門的知識を学ぶ機会を設け、集団の中でも個別に適切な支援ができるようにしました。
- 新入園児を対象に入園前にプレ保育を実施し、保育園の生活を親子で体験してもらい、安心して入園を迎えられるようにしました。
- 転園や卒園後も園長、主任が相談窓口となり、継続して必要な支援を行いました。

⑦人材育成

- 新規採用職員や経験の浅い職員に対して、「一日の保育の流れ」を基に保育の意味合いを確認しました。また、本部が活用しているチェックリストについて学ぶ機会を持ち、自園のチェックリスト作成に取り組みました。取り組みの中で、今まで曖昧にしていた事柄に気づくことができ、職員の意識統一や気づきを高めるためのものとして活用しました。
- 乳児保育は、発達を理解した上で個々の生活リズムの把握の仕方や、安定した生活を送るための関わりについて本園で学びました。
- 「不適切保育」については、チェックリストやマニュアルを活用し勉強会を実施しました。自身の保育を振り返る機会を設けました。

- 研修計画に基づき、中堅保育士はキャリアアップのための研修を受講しました。
- 子どもの咀嚼機能について必要な知識を習得するための研修会に参加しました。また、Web研修の受講を活用し、雇用形態を問わず多くの職員が様々な研修を受講することができました。保育園の役割について再認識し、使命と覚悟について気づかされました。
- 園内研修（石井式漢字教育、アレルギー対応、救急救命、SIDS、感染症対応、嘔吐処理、不審者訓練、体育指導など）を実施し、安全対策の意識を高めていきました。また、体育講師に教わった内容は、子どもたちの発達に合わせて取り入れ、保育の中で実践しました。

⑧地域の実態に対応した事業

●地域子育て支援拠点事業

- ・広報活動に力を入れ、より多くの利用者に参加してもらえるように取り組みました。子育て支援センターのパンフレットを新たに作成し、地域の施設に配布したり、ホームページやSNSで活動内容を伝えたりすることで、校区外の利用も増えました。
- ・園庭開放での園児との交流、保育園体験（給食試食会）、保育園内での講座や運動会、園行事への参加などを通して、保育園のことを知ってもらう機会を作りました。
- ・相談業務や子育て通信等を通じて子育てに必要な情報を提供しました。

●地域とのかかわり

- ・地域の小学校の保育園訪問・中学校の職場体験を積極的に受け入れました。
- ・近隣の高齢者施設との交流については、高齢者施設側の安全配慮のため、交流はできていません。
- ・地域の活動に参加し、公民館活動としての文化祭や駅伝大会参加、公民館清掃、商店街の盆踊りや祭りに参加しました。
- ・地域の自主防災活動に参加し、有事の際に地域と連携が取れるよう訓練しました。

●小学校との連携・接続について

- ・保幼小連絡協議会での意見交換や園児の引継ぎを行いました。
- ・児童クラブとは3月に情報交換を行いました。

⑨苦情対応

- 第三者委員（主任児童委員2名）を設置し、園内での掲示やガイドブックに苦情解決システムについて記載し、保護者に周知しました。苦情解決の責任者を園長、苦情受付担当者は主任保育士とし、迅速に対応しました。
- 意見箱を玄関に設置し、保護者が意見を出しやすいように配慮しました。

⑩リスクマネジメント

- 安全計画に基づいて、様々な災害を想定した避難・消火訓練を月1回行いました。また、年に1回消防署の職員立ち合いで火災時の避難訓練の中で、職員は消火器を使った模擬訓練や通報訓練を実施しました。また、保護者参加のもと引き渡し訓練を実施しました。

- ヒヤリハット報告を、昼礼時に行い、原因と対策についてはその都度話し合い改善していききました。また、年度末に内容を集計したことで、園内で起こりやすい事故やケガを把握することができました。
- アレルギー児の食事は、医師の指示書に従い調理員と連携をとり適切に対応していききました。
- 3月に保健衛生マニュアルや感染症マニュアルの見直しを行いました。安全や保健に関する園内研修を、安全計画に基づいて行いました。重大事故が起きたことを想定した実践研修を年3回行いました。
- 備蓄品・防災用品を調理員が管理し園長がチェックしています。消費期限が近づいてきているものは給食で提供し、災害時の食事にも慣れておける取り組みを実施しました。
- 地域の防災訓練（年2回）や小野交番連絡協議会（年3回）に参加しました。交番連絡協議会では、地域の危険箇所や地区の情報交換を行いました。
- 散歩を通して、交通安全指導を行い道路の歩き方や渡り方を伝えました。また、年1回交通安全課による交通安全教室を実施し、模擬道路を使って信号の見方や交差点の渡り方について学びました。

⑪休日保育

- 休日保育の年間延べ利用人数は135名でした。
園内利用者 6名 園外利用者3名

⑫その他

- ・運動遊具乳児用ブランコ2台セット購入
- ・避難車1台購入
- ・エアーマット購入